

総称	学力評価のための新たなテスト（仮称）	
実施主体	大学入試センターを念頭に置きつつ、「学力評価のための新たなテスト（仮称）」等の支援と方法開発等を一体的に行う組織に大幅に見直し。	
個別名称	高等学校基礎学力テスト（仮称）	大学入学希望者学力評価テスト（仮称）
目的・活用方策	<p>○生徒が、<u>自らの高等学校教育における学習の達成度の把握及び自らの学力を客観的に提示することができるようにし、それらを通じて生徒の学習意欲の喚起、学習の改善を図る。</u></p> <p><上記以外の活用方策></p> <p>○結果を高等学校での指導改善にも生かす。</p> <p>○進学時や就職時に基礎学力の証明や把握の方法の一つとして、その結果を大学等が用いることも可能とする。</p> <p>※進学時の活用は、調査書にその結果を記入するなど、高等学校段階の学習成果把握のための参考資料の一部として使用。</p>	<p>○大学入学希望者が、<u>これからの大学教育を受けるために必要な能力について把握する。</u></p> <p>「確かな学力」のうち「知識・技能」を単独で評価するのではなく、「<u>知識・技能の活用力</u>」を中心に評価。</p>
対象者	<p>○希望参加型</p> <p>※ <u>できるだけ多くの生徒が参加することを可能とするための方策を検討。</u></p>	<p>○大学入学希望者</p> <p>※ <u>大学で学ぶ力を確認したい者は、社会人等を含め、誰でも受験可能。</u></p>
内容	<p>○実施当初は<u>国語、数学、外国語、地理歴史、公民、理科の必修修科目を想定</u>（選択受験も可能）。</p> <p>○高等学校で育成すべき「<u>確かな学力</u>」を踏まえ、<u>知識・技能を活用する力を評価する問題を含めるが、学力の基礎となる知識・技能の質と量を確保する観点から、特に「知識・技能」の確実な習得を重視。</u></p> <p>※ <u>高難度の問題から低難度の問題まで広範囲の難易度とする。</u></p> <p>○各学校・生徒に対し、<u>成績を段階で表示</u></p> <p>※ <u>各自の正答率等も併せて表示</u></p>	<p>○「<u>教科型</u>」に加えて、教科・科目の枠を超えた<u>知識・技能の活用力を評価するため、「合教科・科目型」「総合型」の問題を組み合わせ</u>て出題。</p> <p>※ <u>将来は「合教科・科目型」「総合型」のみとし、教科・科目に必要な知識・技能とその活用力の総合的な評価を目指す。</u></p> <p>※ <u>広範囲の難易度。特に、選抜性の高い大学が入学者選抜の評価の一部として十分活用できる水準の高難易度の出題を含む。</u></p> <p>○大学及び大学入学希望者に対し、<u>段階別表示による成績提供</u></p>
回答方式	○多肢選択方式が原則、記述式導入を目指す。	○多肢選択方式だけでなく、記述式を導入。
検討体制	○C B Tの導入や両テストの難易度・範囲の在り方、問題の蓄積方法、作問の方法、記述式問題の導入方法、成績表示の具体的な在り方等について一体的に検討。	
実施方法	<p>○在学中に複数回（例えば年間2回程度）、高校2・3年での受験を可能とする。</p> <p>○実施時期は、夏～秋を基本として、学校現場の意見を聴取しながら検討。</p> <p>○C B T方式での実施を前提に開発を行う。</p>	<p>○年複数回実施。</p> <p>○実施回数や実施時期は、入学希望者が自ら考え自ら挑戦することを第一義とした上で、高校教育への影響を考慮しつつ、高校・大学関係者を含めて協議。</p> <p>○C B T方式での実施を前提に開発を行う。</p> <p>○特に英語は、民間の資格・検定試験を活用。</p> <p>※ <u>他の教科・科目や「合教科・科目型」「総合型」についても、民間の資格・検定試験の開発・活用も見据えて検討。</u></p>